

ウェブの活用と防災士資格取得

減災への第一歩 まずは登録から

防災マップ（ウェブ版）を更新

県による土砂災害特別警戒区域の指定や浸水想定区域の見直しなどに伴い、防災マップ（ウェブ版）を更新しました（紙面版は更新作業中）。浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域・土砂災害警戒区域などの危険箇所、避難所の位置などをグーグルマップで確認できます。

ウェブ版でできること

- ・スマートフォン、タブレット、パソコンで閲覧可
- ・災害種別（洪水、土砂災害）ごとに閲覧可
- ・住所検索、拡大縮小、航空写真への切り替えなどの機能付き
- ・印刷し、家庭や地域で「災害時の避難マップ」を独自で作成可



メールで緊急情報配信

市の防災・災害情報をメールで受け取れる「かわにし安心ネット」。外出時でも、リアルタイムで情報を取得できます。外国語は12言語に対応。登録は kawanishi@bosai.net に空メールを送信するか、<http://bosai.net/kawanishi/>（右の2次元コードからアクセス可）へ。



アプリで緊急情報配信

県と市町の防災・災害情報を提供するスマートフォンアプリ「ひょうご防災ネット」。避難情報や気象情報がプッシュ通知で届くなど、速やかな避難を手助けします。

右の2次元コードからアプリをダウンロードするか、「App Store」や「Google Play」で「ひょうご防災」を検索してください。

App Store



Google Play



防災士資格取得の費用を助成

防災士登録を行う市民に、防災士研修講座の受講費用の一部を助成します。

防災士とは、地域や企業で防災対策を行い、被災時は地域で人命救助などに取り組める人材です。防災士登録を行うには、防災士研修講座を修了し、試験に合格する必要があります。詳しくは右の2次元コードから市ホームページへ。助成希望者は、講座を申し込む前に、危機管理課へ申し込んでください（先着10人）。



訓練メールが届くことがあります

9月4日（金）午前9時半より大阪府などで行われる「大阪府880万人訓練」で、エリアメール（NTTドコモ）・緊急速報メール（NTTドコモ以外）が配信されます。

大阪府に隣接する川西市では、訓練メールを受信（マナーモードでも音が鳴ります）することがあります。鳴らないようにするには、設定をオフにするか電源を切る必要があります。設定方法や対応機種などは各携帯電話事業者にお問い合わせください。

コロナで見えた課題 解決に向けて動き出す

本年2月末に市新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ半年が経過しました。約40回の会議を開催し、感染拡大の防止や緊急経済対策に取り組んできました。

緊急事態宣言解除後も市対策本部で逐次対応の見直しを協議しており、7月からの県伊丹健康福祉事務所管内の陽性者数の増加を受け、公共施設や学校施設の一部利用制限を決定しました。

行政サービスについては、感染状況に応じて柔軟に見直ししていかなければなりません。先行きが見通せない中であります。感染対策と社会経済活動の両立に向けて対応してまいりますので、ご理解いただければ幸いです。

さて、今回の新型コロナウイルス感染症拡大により、今まで先送りされてきた課題が鮮明になりました。例えば、災害時における避難所の感染症対策もその一つ



市長 越田 謙治郎

です。阪神・淡路大震災や東日本大震災など大規模災害発生のたびに問題点として指摘されてきました。今回をきっかけに、避難所運営の在り方を見直し、感染症対策を強化しています。

また学校教育や行政事務のICT化についても、私が本部長を務める市ICT戦略推進本部を立ち上げ、市民サービスの向上、行政事務の効率化に取り組んでいます。

感染症対応は長期化が予想されますが、一つ一つの課題に向き合い、難局を乗り越えていきたいと考えています。市民の皆さまのご協力をお願いします。



今、できること

家族の安全・安心を守るために

防災・減災は備えが肝心。事前の準備が家族の命を守ることにつながります。台風被害が増える季節に向けて、家庭で今できる備えを紹介します。写真：平成22年に黒川地区の国道477号線で起こった土砂災害

問い合わせ 危機管理課 ☎(740)1145

家族みんなで事前に確認

避難先と家庭の備蓄

9月は台風による被害が多い時期です。マイ避難カードを作成して避難の計画を立て、家庭の備蓄の確認を家族で行いましょう。避難先は市ホームページや市防災マップを参照してください。

避難の要点を家族で共有

自治体が発令した避難情報が避難行動に結びつかない事例が多いことから、市は各自の逃げるタイミングと場所などを記載するマイ避難カードの作成を推奨しています（右下図）。

事前に避難について考え、目に見える形で残しておくことができ、急に被災した際に迅速に避難できず、命の危機につながる可能性があります。家族みんなで確認した上で、自宅の普段から目に付く場所に貼り、避難行動に役立ててください。

マイ避難カードは洪水や土砂災害など、災害種別ごとに作成します。記載する内容は①避難の判断をするための情報源②避難するタイミング③

明るいと暗い時それぞれの避難先④明るいと暗い時それぞれの避難方法の4つです。

記入方法の詳細や様式のダウンロードなどは下の2次元コードから市ホームページへ。



また3ページ掲載のスマートフォンアプリ「ひょうご防災ネット」では、段階的に説明を受けながらマイ避難カードの作成ができます。「逃げ時」に設定したタイミングになると、作成したマイ避難カードがスマートフォンに表示されます。

小・中学校から避難所を開設

新型コロナウイルス感染症対策のため、避難所に広いスペースが必要となりました。

風水害時は各小学校（明峰・多田小学校を除く）と明峰・多田中学校を第一段階から開設。テント型の仕切りを使い、感染症対策を講じます。

また、避難先は小・中学校だけではありません。危険でなければ水害時は自宅の2階に避難する、「3密」を避けるために親族宅に避難するなど、より安全な方法を検討してください。

3日分以上の備蓄が必要

災害発生から3日間程度は物資の流通が滞る恐れがあります。各家庭や職場で最低3日分、できれば1週間分の食糧や水、生活必需物資を備蓄しておきましょう。

詳細は下の2次元コードから市ホームページへ。

